●京都府立京都学・歴彩館（初検証）

課題・問題点等	◆ホールの利用率は約13%と低率であり、収入合計に対する利用料金収入は約１%と、経営に寄与していない。 ◆館全体を活用した利用向上の取り組みが行われていない。 ◆20万人以上の利用者があるものの、府負担コスト等の運営経費が割高である。
府民サービス等改革検討委員会による改善意見等	□設置目的の「文化の発展及び学術の振興に資する」を具現化するため、来館者数や利用率とは異なる独自の指標を設定し、指標に沿った取組が必要である。 □「京都学」の拠点としての意義はあるものの、府民に浸透しているとは言えず、施設全体が誰をターゲットとしているのか不明瞭になっている。 □建設コストに加え、維持管理や更新コストがかかり続けるため、収益確保に確実に取り組み、黒字運営により修繕費等を積み立てる仕組みにしておく必要がある。 □大小ホールの利用率向上が最も重要な課題。営業部隊の編成や隣接する教養教育共同化施設との連携などを検討してはどうか。 □機能に応じ、直営方式が最善の方法か見直す必要があり、指定管理の導入も含め検討を行うべきである。
京都府の検証結果及び対応方向	**見 直 し** ＜見直し方策＞ ◎設置目的に照らした成果指標の設定が必要。 ◎ホールの利用率向上のため、営業強化や教養教育共同化施設との連携を検討するとともに、施設運営の費用対効果の分析を行い、指定管理の導入の可否等について、速やかに検討を行うこと。 ＜今後の対応＞ 〇北山文化環境ゾーンの中での京都学・歴彩館の位置付けに合致した成果指標の設定を行うとともに、館の持つ機能に応じて指定管理の導入を含め、最適な運営手法について検討する。